

お金の使い道、海外篇

飄

々

広報委員

川野 豊一

というわけで、信じられないことに、アメリカの大統領がベネズエラの大統領を拉致した。さらに信じられないことに、今度はイランと戦争を始めた。ベネズエラの事件は石油を手に入れたので成功と判断したのだろう。イランへの攻撃も核能力の解体や軍事力の制限等よりも、イランの体制を転換して石油利権を得ることが目的ではなかったのか。ホルムズ海峡を封鎖され世界中が大混乱となっているが、イラクへの攻撃を始めたとき当のご本人はこのような事態が起こることは考えていなかったに違いない。

アメリカ議会への報告によると、イラン侵攻の最初の6日間で113億ドルが費やされたとのことである。BBCによると、2003年のイラク侵攻では半年で570億ドルが使われ、2001年に始まったアフガニスタン侵攻では2011年10月～2012年9月の1年間で1,310億ドルが注ぎ込まれたとのことである。イランでは開戦から1か月で200億ドルを超えた可能性があると言っている。今後、国防総省は最大2,000億ドルの追加予算を要求しているそうである。

トマホークなどの高価な兵器の消費だけでなく、地中海とアラビア海に二つの空母打撃群を展開するなど、戦争を遂行するため大金が注ぎ込まれている。最新型のフォード級空母1隻の建造費は130億ドル、それを運用するための護衛艦や潜水艦を含む打撃群一つで年間約30億ドルのコストがかかるそうである。また、撃墜されたF-15Eの価格は1機あたり1億ドルくらいらしい（撃墜したイランの携帯型ミサイルは4万3,000ドルだそうである）。

2026年4月7日、イランへの攻撃を2週間停止すると発表された。攻撃を始めた本人の面子が保てる形での停戦に持っていきたいと考えているのであろうが、何にせよ戦闘の停止は良いことである。今後はイラク攻撃にどのような正当性があったのか、そして上記のような莫大な金額を注ぎ込む価値のある戦争であったのかなどを、戦争を始めた本人がアメリカの国民や議会、そして世界の人々へ説明する義務がある。一国の安全に責任を持ち他国との共存を望む政治家であるならば、アメリカや世界の人々とその将来に向けてもっと生産的なことにお金を注ぎ込んで欲しいと思う。